

森林資源の循環利用の促進について

【担当省庁】農林水産省

戦後に造成された人工林の多くが利用期を迎える中、木材利用の需要拡大を強力に進めるとともに、伐採や再造林を担う林業事業体を強化していくため、以下の措置を講じていただきたい。

- 木材利用を促進するため、林業・木材産業成長産業化促進対策などにおける公共施設の木造化・木質化に対する補助率の嵩上げや、商業施設などの民間分野も支援対象とする制度の拡充、また木材需要の拡大に繋がる国民運動の一層の強化
- 森林整備、高性能林業機械の導入及びその運用に不可欠な路網整備など、林業経営の強化を支援する森林整備事業及び林業・木材産業成長産業化促進対策について、必要な予算の十分な確保
- 森林資源の循環利用を促進するためには、木材生産量の増大と併せて再造林を進めていく必要があることから、再造林まで一貫して行う主伐時の集材について、予算を十分に確保するとともに、伐採経費についても対象となるよう柔軟な制度運用

【現状・課題等】

■民間施設も含めた幅広い木材利用の推進

木材需要の拡大に向けて、公共施設のみならず、商業施設・オフィスなどの民間施設など、様々な分野で幅広く木材利用を進めることが必要であり、木造公共施設整備事業の床面積の下限値要件の緩和等や、民間施設を事業対象とする制度の拡充や木質内装の補助率嵩上げなどが必要

■木材利用拡大に係る機運醸成に向けた取組

- ▶ 国では、国民運動として「木づかい運動」などを展開。概算要求事業の予算を十分に確保し、一層の取組強化が必要
- ▶ 京都府では、木材加工流通業者、建築・設計業者及び林業・木材産業関係団体等が参画し、建築物での木造化・木質化の事例や消費者への普及事例などの情報共有や、今後の取組など意見交換を行う「京都府産木材需要拡大協議会」を開催。今後は、消費者団体等にも参加を働きかけるなど、消費者である府民への木材利用の普及啓発を推進

■主伐・再造林の状況

主伐をしても再造林経費や下刈り、鳥獣被害対策などの保育経費に見合う収入が得られないため、主伐が進まず、また、伐採しても再造林を行わない森林所有者が増加しており、人工林の主伐実施箇所における、年毎の再造林率は平均で約 20 % (全国約 23 %) にとどまり、健全な森林資源の循環が進んでいない状況

京都府 の担当課	農林水産部 林業振興課 (075-414-5006)
-------------	----------------------------

【国の事業等】

■概算要求〔農林水産省〕

- ▶ 林業・木材産業成長産業化促進対策 146億円（令和3年度予算82億円）
林業経営者の育成や経営強化のため、高性能林業機械の導入、主伐時の全木集材と
再造林の一貫施業、木材加工流通施設の整備等、川上から川下まで総合的に支援
- ▶ 森林整備事業 1,478億円（令和3年度予算1,248億円）
森林資源の適切な管理と林業の成長産業化を実現し、国土強靱化や地球温暖化防
止等にも貢献するため、間伐や主伐後の再造林、林道の開設改良などを推進

【京都府の取組】

■ひろがる京の木整備事業（令和3年度予算105百万円）

府の公共施設、民間の施設や住宅などにおいて、府内産木材を利用した木造化や木
質化、木製品の導入等を支援

■次世代林業を担う林業事業体総合支援事業（令和3年度予算370百万円）

林業の成長産業化と適切な森林管理の両立を目指し、府内の林業を担う林業事業体
の経営をソフト・ハードの両面から支援

■京都府内の公共建築物の木材利用

- ▶ 京都府茶業研究所（平成30年竣工）
・木材使用量：390 m³（うちCLT使用量144 m³）
- ▶ 久御山町とうずみこども園（令和元年9月着工）
・木材使用量：113 m³（うちCLT使用量51 m³）



京都府茶業研究所

■京都府の高性能林業機械等の導入状況

（単位：台）

年 度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
全 国	7,089	7,686	8,202	8,939	9,659	10,218
京都府	50	53	54	61	62	77
府内シェア	0.71%	0.69%	0.66%	0.68%	0.64%	0.75%

参考：代表的な高性能林業機械「ハーベスタ」
購入経費 約30,000千円/台
レンタル経費 約5,000千円/台/年



■京の木生産の森再生事業

（令和3年度予算30.7百万円）

森林資源の循環利用による森林整備を確実に
進めるため、再造林経費の他、保育経費、植栽
木の鳥獣被害防止施設の設置にかかる経費を支援